平成 31 年度矢作川流域圏地域連携業務
第 4 回編集委員会　メモ

日時:令和元年 12 月 23 日(木)　15:00～17:15
場所:豊田市役所東庁舎 5 階　東 53 会議室
編集委員:浜口、洲崎、近藤、髙橋、中田
打合せ方式:会議
資料:第 3 回編集委員会メモ、耕 Life2019 冬号、事例集年表(近藤)

【1】事例集振り返りと座談会

(1)事例集振り返り

・事例集振り返りについては、次回編集会議までに洲崎さんが作成

(2)事例集座談会・事例集座談会は、3 月中にやってしまった方がよいのではないか

・進行役は洲崎さんが実施する

・参加者は、編集委員と沖さん

・次回編集委員会にて、内容的に漏れがないかを整理

・3 月 23 日の週にやるとどうか？沖氏の都合を確認して決定する

→後日決定:3 月 27 日(金)15 時～、メイホーエンジニアリングにて

→事務局補佐は不参加となる可能性がある

(3)冊子にとりまとめる内容

・相関図を作るのは難しそうだ、平面図に表現できるか

・戸田さんの周りだけでもピックアップしてみられたらと思っている(洲崎)

・旭の繋がり、岡崎の繋がり、佐久島の繋がりなどテーマ別に

・流域内のお付き合い体制の文章ができるといい

(4)座談会の進め方

・年表を見ながら語り合う方法で進め、これにより相関図を作成する
・その中に価値観の転換などが入ってくるのではないか
・主だった関わり合いの相関図に入ってきそうな団体について、互いにしていることを語り合う
・「これって、こうだよね」といった話をしながら成果を作っていくワークショップ的な方法で進める
・相関図ができてきたら、オフィスマッチングモウルなどで清書してもらうとよいのではないか
・グラフィック・レコーディングができればいい
　→名畑恵さん(まちの縁側育くみ隊)もしくは吉橋さん(矢作川研究所)に依頼できるのではないか
　→後日、名畑恵さんに決定
・I ターン、U ターンの方をピックアップ
・最終的に原稿は座談会の形でまとめなくてもよい

① 10 年の振り返り
② 相関図:座談会をやりながら作成
③ 年表:現段階のもので完成とみなして進める
④ 座談会
　i)　価値観の転換(カテゴリ X)
　ii)　地域に新しく入った人たちが地域で輝くためには
　iii)　支えあいの構造

【2】冊子に盛り込む内容について

・冊子の中に何を入れなければいけないか?
　-ターニングポイントのエピソード
　-懇談会、もしくは矢作川の活動史
　-どうしても伝えておきたい(成功例として残しておきたい)こと
　-他の流域圏で活動している人たちに参考になること
・「わがこと」意識の気づきにつながるような内容だとよい
・農林業にお金を貸している金融業の方
　(農林業を健康に保つための研究をしている人からヒアリングされている)
・「今のままやっているだけでは、川はよくならない」という内容も必要ではないか
・2009 年を中心に様々な人が入ってきている
・大きな転換、矢作川研究所豊田市合併期(2005)
　→山にシフトしていった時期(おいでん山村センター)
・国交省が想定していた以上に、集まってきた人たちによって新しい形ができてきた、ということについてどこかで表現できたらいい
・豊橋河川事務所の権限が及ばない場をセットした英断については、座談会の中のキーワードにしてみたらどうだろう

【3】キーパーソンヒアリング

・キーパーソンヒアリングの依頼は年内に Mail にて発送予定
・発送後、[流域圏担い手づくり事例集]ML にアップする
・本当は、事前打ち合わせをやるとよいが、ML にて「取材者の心得」を発信する（洲崎）
・聞かなければいけない内容（3 項目）について、ひな形があるとよい（髙橋）
・第 1 弾として、鈴木先生へのヒアリングを 1 月中に実施し、共有したい（洲崎）
・特段、上記を待たずに進めてもよい
・3 月上旬に読み合せ（内容の修正は 4 月にずれ込んでも可とする）

【4】流域圏座談会

・流域圏座談会（懇談会）もやるべきだろう、集まって話す会はやるが、記事にするかどうかは別とする
・矢作川の歴史の中で議論になるのだが、実は年表に深く関わるはずの矢作川研究所の話が漏れているだろう（近藤）
・流域圏座談会のテーマとして、展望について話したらよい
・4 月頃に開催とする
・参加者は、編集委員、丹羽さん、キーパーソンの中からピックアップ
・キーパーソンヒアリングを読んで、そこから漏れていることを話に盛り込む

【5】懇談会の世代交代と今後

・新しい世代を入れていく工夫は必要だろうというテーマについても座談会のキーワードにすべきだろう
・30 代、40 代が懇談会そのもののメンバーに入ってくれるとよい
・成功した事例についてピックアップして、流域圏として新しい手法を取り入れるなどするべきだろう
・岩本川、橋の下、りた、しばちゃん、などが次の世代の展望に入るのではないか
・次の 10 年に登場する人物たちのキャラクターで進めればよいのではないか
・流域圏懇談会が自発的に実施できるのであれば解散してもいいが、今後は今までの 10 年を踏まえてどう発信していくかが重要だ
・辻本先生がおっしゃるように、これまでの 10 年と同じことをただやっているだけではいけないと思う
・近年、川部会も海部会もまだ展開する可能性が出てきている
・市民部会も新しい体制として、うまく機能している
・市民部会で話題になった、ネオニコチノイド、マイクロファイバー（マイクロプラスチック）などの話も流域圏懇談会のテーマになっていくのかもしれない
・流域圏で鳥がいなくなっていることを認識するべき
・「環境に負荷をかけていることは暮らしの中から外していく」という話を共有していけるとよい
・市民部会のみならず、他の部会の情報を共有するべき
・通信を早期のタイミングで他部会に紹介して共有する必要がある
・HP の更新を進めるべきで、今の表示のタイミングでは遅い

【6】10 年誌の概略構成案

・「全体会議冊子」：部会長まとめ、流域圏年表、洲崎図表、近藤年表

A4　表紙、はじめに、目次、山川海市民 4×3、事例集まとめ 3、事例集団体 2

A3　流域圏年表山川海 3×2、事例集カテゴリ表 2、近藤事例集年表 2

・目次案について、2 月全体会議に出すもの、8 月冊子版に掲載するものが分かるよう再整理したものを作成する（浜口）→以下、後日作成

【下記が構成案】 ※ゴシック太字が 2 月全体会議に提出するもの

・はじめに（2 月版は河川事務所長、冊子版は辻本座長）　→ 1 頁

第 1 章　矢作川流域圏懇談会の 10 年のあゆみ

・矢作川流域圏懇談会とは（組織図、矢作川流域図も入れる）　→ 2 頁

・全体の活動年表（アジア航測）　→ 12 頁

・山・川・海・市民部会、10 年のふりかえり（各座長）　→ 全 12 頁前後

第 2 章　担い手づくり事例集が生み出したもの

・事例集カテゴリー表、事例集年表（近藤さん）　→ 8 頁

・事例集のふりかえり（洲崎さん）　→ 5 頁？

・事例集座談会（座談会形式でまとめるかどうかは実施後検討）　→ 10 頁？

・事例集相関図（旭地区、岡崎・佐久島、根羽・・・）　→ 4 頁程度？

第 3 章　想いの源流を探る

・キーパーソンヒアリング　19 人　→ 全 38 頁前後

・流域圏座談会

（ヒアリングから漏れている内容を拾う、この中で今後に向けての話題も抽出）　→ 10 頁？

第 4 章　新たな 10 年へ

・今後に向けて　→ 2 頁程度？

・おわりに　→ 1 頁

・巻末資料　→ ？

以上